

物流生産性向上に向けた取組事例（その他生鮮品）

品目特性に応じた物流効率化の取組 【ホクレン】

荷役等時間の短縮

- ・ホクレンでは、青果物輸送の約4割がパレット化済み。2024年度時点でばれいしょ48%、大根48%、にんじん64%、玉ねぎ41%でパレット輸送を実施。
- ・米穀、でん粉、砂糖、畜肉でもパレット化に取組。雑穀はフレコン利用の拡大を図る。

荷待ち時間の短縮

- ・ブルキャリア*を活用した中継輸送での荷待ち削減を試験中。

*新生自動車工業(株)
平ボディのトラックの荷台に必要な時だけ載せられる、家畜輸送用の枠。



積載効率の向上等（繁閑平準化）

- ・取引先に対し、計画発注や受注締め時刻の前倒し、リードタイムの確保を依頼。
- ・てん菜では、圃場と工場の中間地に貯蔵場を設けて搬出の車両回転率を上げ、一時貯蔵した後に工場へ輸送することで、必要車両数を抑制。
また、てん菜の繁忙期に閑散期となる牧草作業オペレーターに応援を依頼するとともに、ダンプアップ施設の導入によりダンプ車不足時は平ボディ車を活用。

積載効率の向上等

モーダルシフト

- ・ホクレンでは、道外移出する製品と道内移入される貨物をマッチングし、往復物流に取組。



独自輸送手段で
首都圏3日目配送を実現
ほくれん丸



最速20時間で北海道釧路港と茨城県日立港間を、2隻でディーリー運航する高速大型RORO船。ピーク時には1日約100万ℓの搾りたての生乳が入ったミルクタンクと共に、道東地区から集荷した青果物・砂糖・でん粉など多様な農畜産物の他、機械類や食品などを輸送しています。



ほくれん丸を活用した取り組み

1 船り荷確保による輸送コスト抑制

日立港から釧路港に渡る経路でも、自動車や飲料品、生活雑貨などさまざまな乗船貨物を確保し、そこで得た収入を運航費用に充当することで、農畜産物の輸送コストを抑制しています。

2 災害時の輸送ルート構築

船舶と貨物鉄道は、安定供給に欠かせない機関輸送手段ですが、貨物鉄道は、災害発生時に長期間不通となる可能性があり、そうした有事に備えてほくれん丸は、JRコンテナを積載し代替輸送ができる体制を構築しています。